

◆半紙二行たて書きに臨書して下さい。出品料440円

第三回

1、字句「吾前東」

2、形式「半紙タテ使用。右に「吾前」、左に「東」と臨書し、左下余白に落款「○○臨」と調和を工夫して書き入れる。

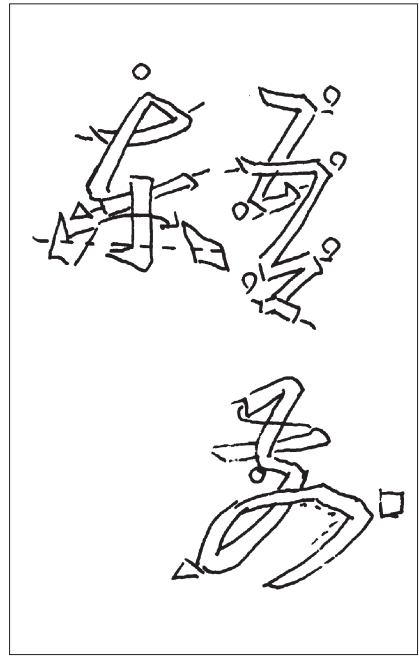
3、概観「十七帖」の特質ともいえる「断筆」について。「十七帖」は、唐の太宗皇帝が弘文館（高級官僚の子弟の学校）の草書の学習のテキストとして刻されたものといわれている。その為、一点一画を明快に特に転折において筆をずらして再度筆を突くという書き方をしている。一画一画に充分筆意を込めて書かれたことはまぎれもない。三井本と他の「十七帖」刻本との相違は、「断筆」の有無にあると言える。

4、各字のポイント

吾 断筆○が五ヶ所あります。横画が五本あるが、全て方向を変えている。

前 二画目の起筆は、筆を立てて鋒先を巻き込む。○で筆を引き上げ、△で筆の裏面に、□で表面にすると、内側が鋭角になり、文字の幅を広げる。

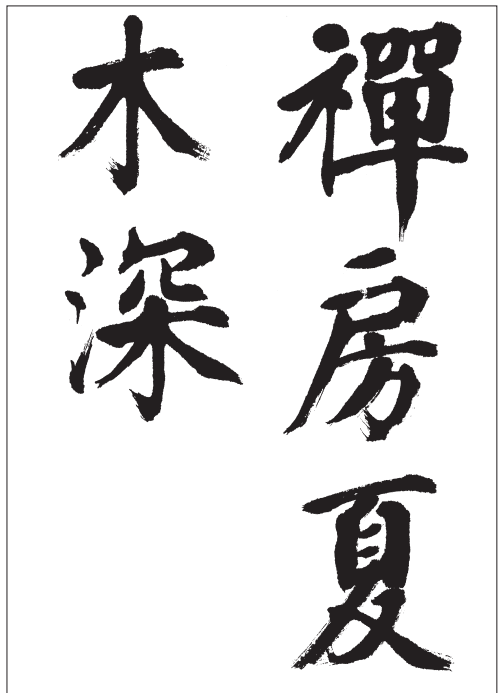
東 ○で裏面にし、下にゆく程太く、△で表面に。一画目の横画はすくい上げるようにし、三画目の横画は直線にし、方向の違いを表出。右の点は左の点より少し下げる。



十七帖・王羲之

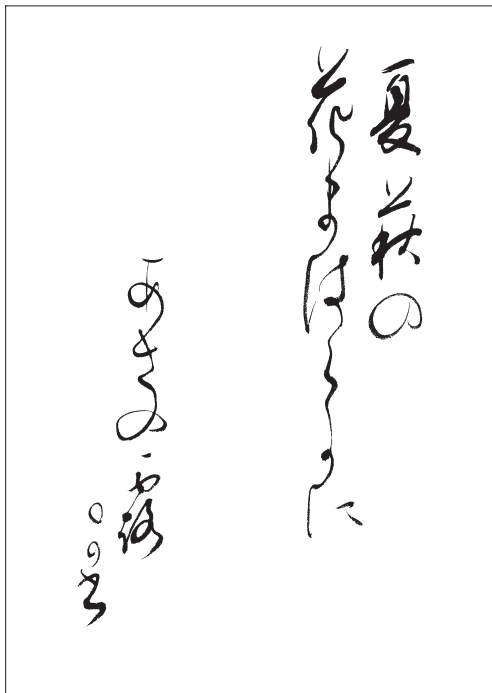
半紙課題(予告) (七月二十二日締切)

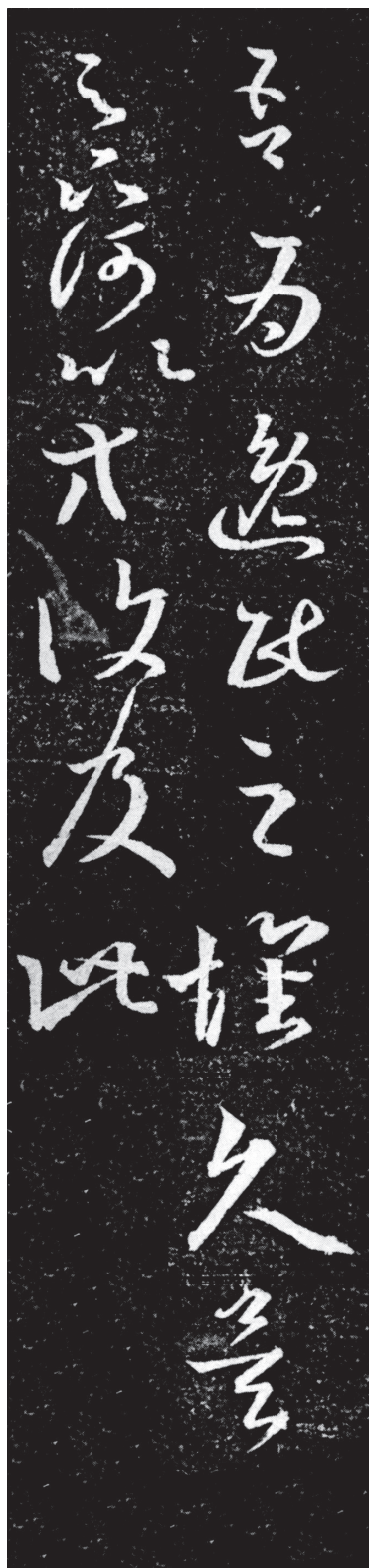
平岡華雪先生書 禅房夏木深し(裴迪)



訳：禅寺に夏木立ちが樹蔭を深くしている。

平岡華雪先生書 夏秋の花疎らかに朝の露(句仏)





（天来書院）

吾爲逸民之懷久矣。足下何以万復及此。
吾れ逸民の懷いを爲すこと久し。足下、何を以てか方に復た此に及び、
（現代語訳）私は仕事を退いてからは、ここでのんびりと隠居生活を送りたいと、ずっと以前から思っておりました。
あなたからの手紙では、もう一度政界に戻ってこないかということ、お誘いの内容でした。

※随意部参考（半紙・条幅）としてもご活用下さい。抜粋可。
随意部半紙は無料。随意部条幅は一枚目無料、二枚目から五五〇円。
バーコード券に「条臨」とご記入下さい。名簿は条幅部で「臨」と表示されます。

一字書（六月二十二日締切）

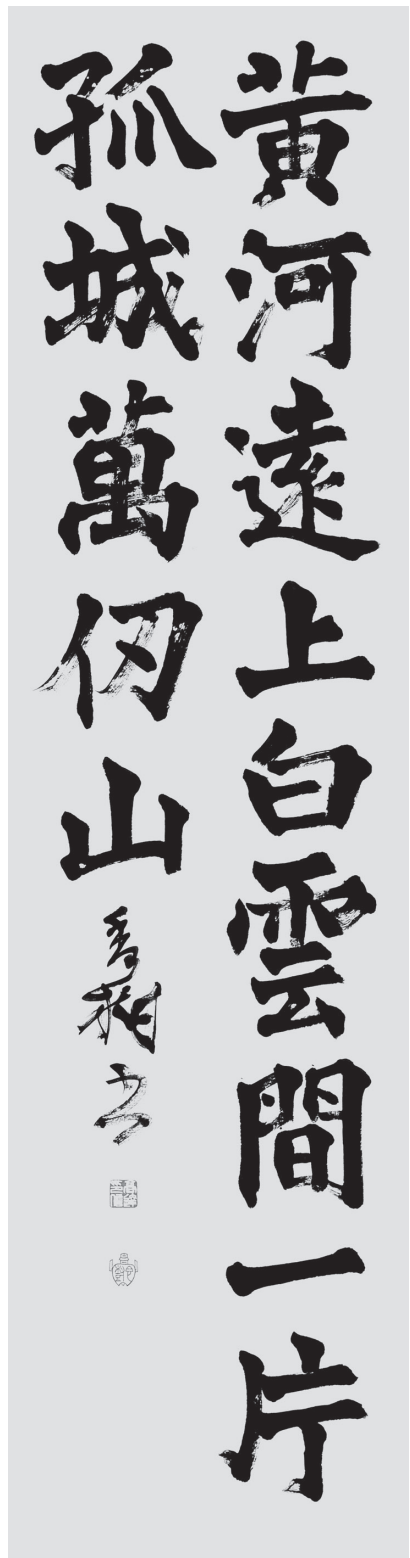
課題

事

- (1) 書体自由
- (2) 半紙タテ ※ヨコは中止
- (3) 落款は余白に調和を工夫し書き入れる
- (4) 出品料 四四〇円
- (5) バーコード券貼付 太枠内の臨昇の隣の空欄に
一字と記入 段級は無記入

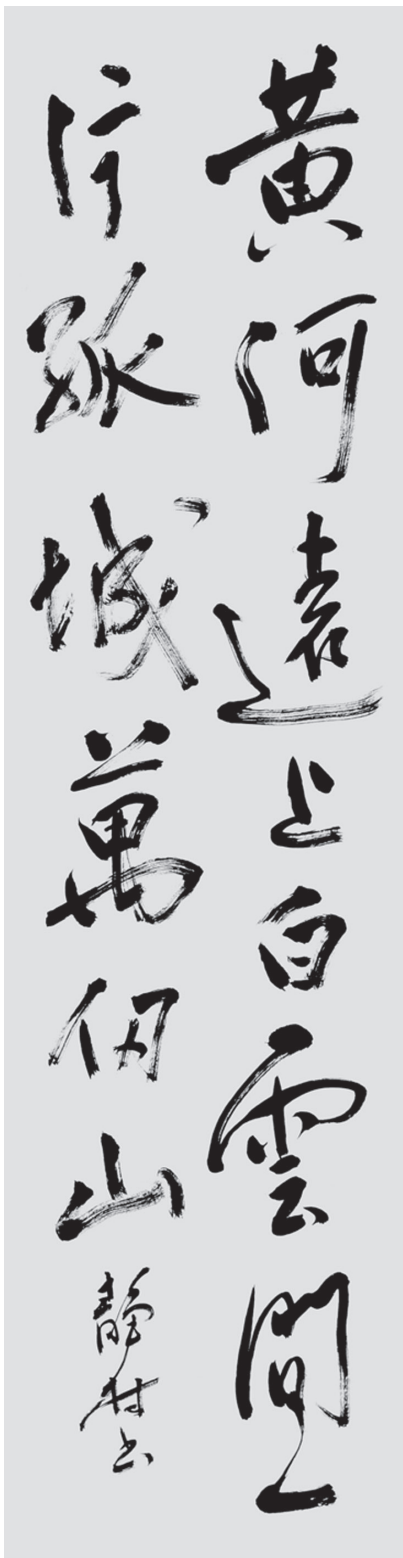
A 高橋香樹会長書

黄河遠上白雲間 一片孤城萬仞山(王之渙)
黄河遠く上る白雲の間。一片の孤城萬仞の山。



B 鈴木静村先生書

一年に一度は楷書作をと思いつながら、仲々果たせませんでした。今回の楷書は、起・収筆・転折は六朝の楷書を意識して書きました。六朝の力強さを求めた為か、文字が少し大きくなってしまっただけ。しかし、結体は六朝になりきれいていません。多習したい。



初歩段階者向けとして行書体を基調にした作。一字内の筆脈はもちろん、特に大事な次の字への脈絡を大切に。画と画どうしを深く接することは、できるだけ避け、字内に風通しをよくして、明るい文字を表出する。ねばりの線、突き筆、弾み筆、逆筆、挫き筆をどう使うかが重要。鋒先の利きの表出に思い切って取り組んでほしい。墨継ぎは雲と萬。

訳：黄河にそうてはるか遠く白雲のたちこめる上流にさかのぼり、身は深くえびすの地に入ると、一箇の城塞が萬仞の山頂にそびえている。

予告 (七月二十二日締切)

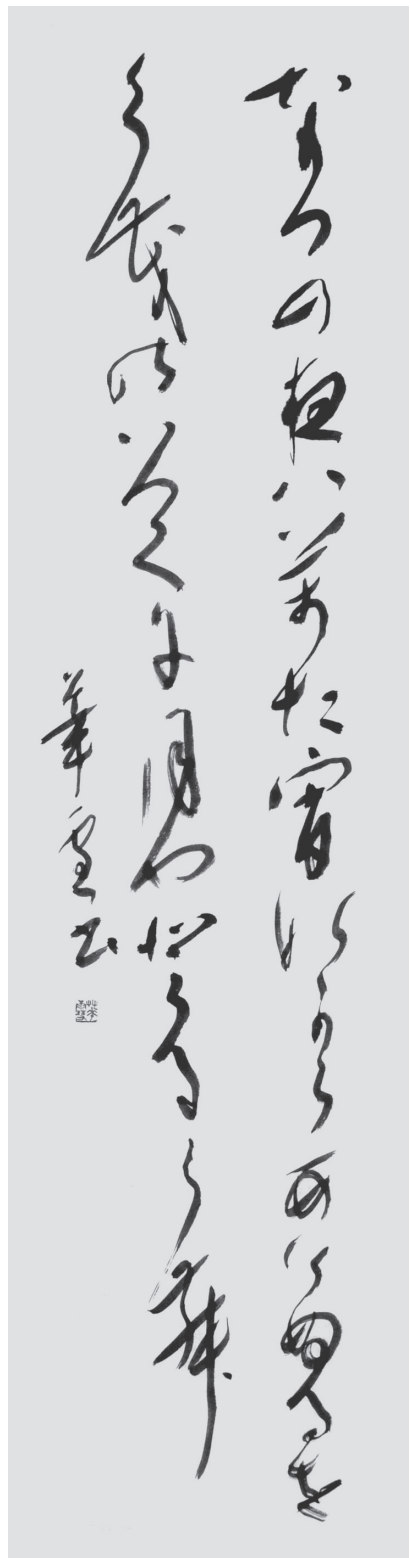
憶初年少在南梁

兄弟歡遊久未忘 (楊奐)

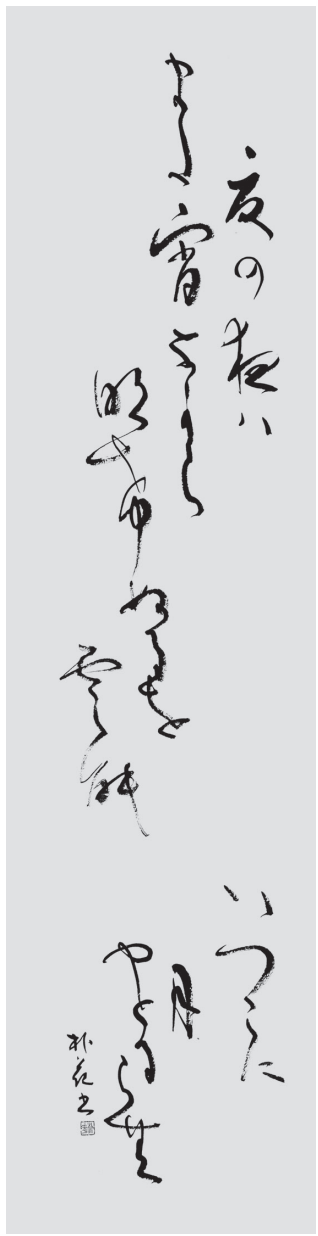
- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条漢を○で囲み(1)と記入する。)
- ・二枚目からの出品 (バーコード券の条漢を○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料550円)

A
平岡華雪先生書

夏の夜はまだよるながらあけぬるを雲のいづこに月やどる 覧 (古今和歌集 深養父)
なつの夜八萬た宵那可らあ介ぬるを久茂能いつ久尔月や登るら舞



B
向山朴花先生書
夏の夜八万多宵な可ら明希ぬるを雲能いつこに月やとるら無



清原深養父

平安時代中期の歌人。中古三十六歌仙の一人。房則の子、元輔の祖父。清少納言の曾祖父にあたる。

紀貫之、中納言兼輔と親交があった。作品も多く、すぐれた歌人であり、晩年には、京都大原の近くに、補陀落寺を建てて、隠れ住んだと言われている。

学び方

歌意：夏の夜は短くて、まだ宵と思われるままに明けてしまっただけ、雲のあたりに、月は宿っているのだろうか。
条幅の構成を、二段表出の散らしにしました。上下の繋がりを意識して、上段の末尾は、右に寄せていき、下段の文字群は、控え目にして、全体を引き締めた形です。
苦心した点は、二つあります。ひとつは、原歌に無い「宵」「明」の漢字を使い、字面に減り張りをつけたことで、柔軟な流れを邪魔しなかったかということ。ふたつ目は、下段の書き出しの位置と、文字の位置の配分です。
試行錯誤の学習は続くのですが、それぞれ書き手の文字表現により、作品は大きく変化出来ると思っていますので、挑戦してみてください。

予告 (七月二十二日締切)

山里の峰のあま雲とだえして夕べすゞしきまきの下露 (新古今和歌集 太上天皇)

- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条かを○で囲み(1)と記入する。)
 - ・二枚目からの出品 (バーコード券の条かを○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料550円)

条 幅 部 随 意 参 考

小林 崇華 先生 書

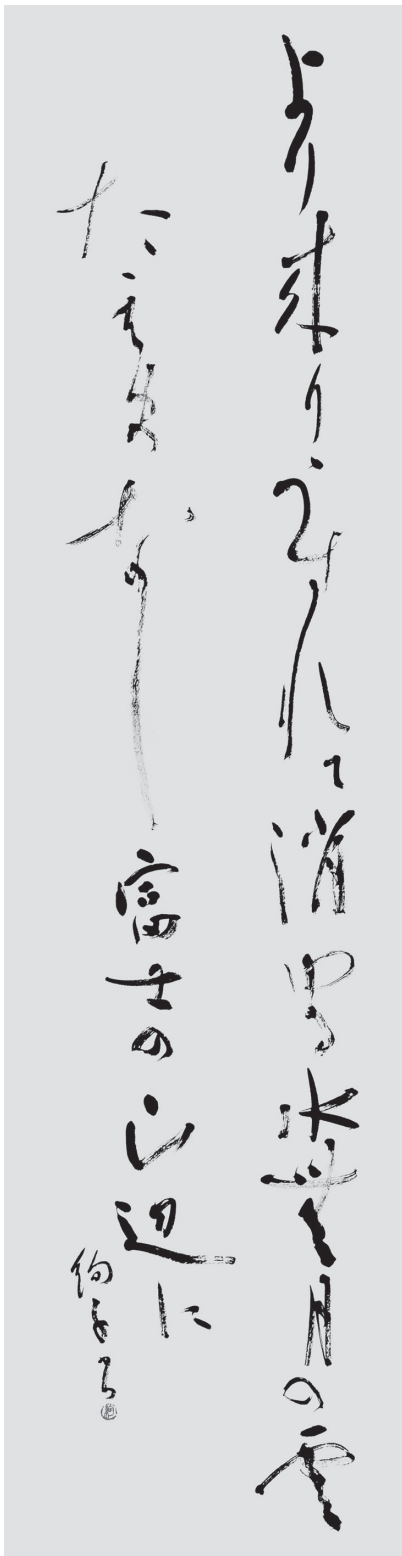
梧竹風清六月寒（岑參）
梧竹風は清く六月寒し



訳：梧桐や竹に吹く風は清涼で夏の盛りも寒く感ずる。

宮 絢子 先生 書

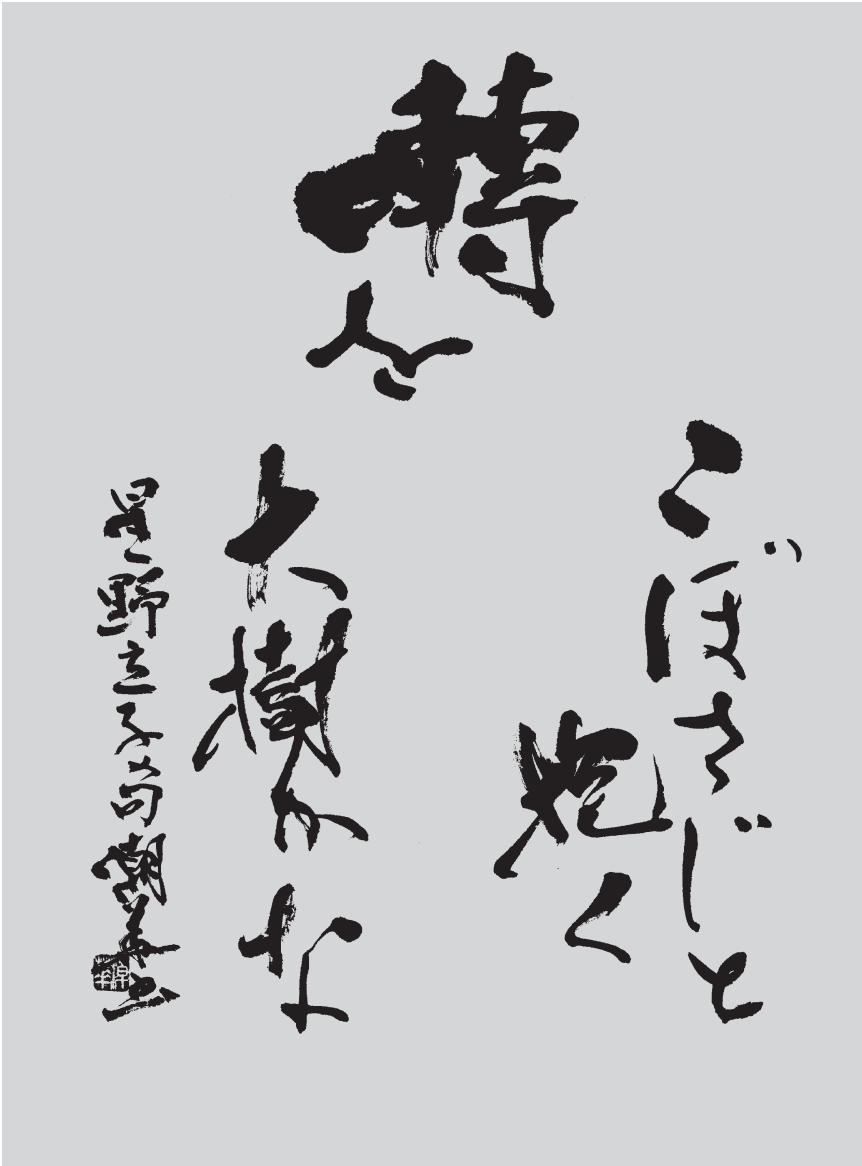
より来りうすれて消ゆる水無月の雲たえまなし富士の山辺に（若山牧水）
より来りうすれて消ゆる水無月の雲たえまなし富士の山辺に



- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点（バーコード券の条随を○で囲み（1）と記入する。）
 - ・二枚目からの出品（バーコード券の条随を○で囲み（ ）に何枚目か数字を記入する。出品料550円）

水貝潮華先生書

囀なまりをこぼさじと抱く大樹かな
星野立子



今月の課題は、たくさんの方たちの恋歌を、大きな樹が一つもこぼさぬように、しっかりと抱きかかえている。母性溢れ、春の喜びを素直にストレートに表現した句です。紙面を上・下に分け、上部中央に「囀を」を墨量タップリに配っています。そのボリュームを受け、下部に「こぼさじ」と「大樹かな」の間に余白を十分に取り、収めています。上・下の墨量のバランスをうまく取ることにより、作品が自然に落ち着いたものになります。また、行の中に動きを持った流れを作ること、紙面に変化をもたらすことができます。

星野立子（一九〇三〜一九八四）

東京・麴町生まれ。俳人。高浜虚子の次女。評論家星野天知の子息吉人と結婚。十代後半から作句。虚子も彼女の自由闊達な才能をこよなく尊重した。『ホトトギス』で活躍し、虚子のすすめにより『女流俳誌』『玉藻』創刊・主宰。やわらかな句風で、昭和十年代中村汀女とともに女流俳人の双璧。句集『立子句集』『笹目』など。

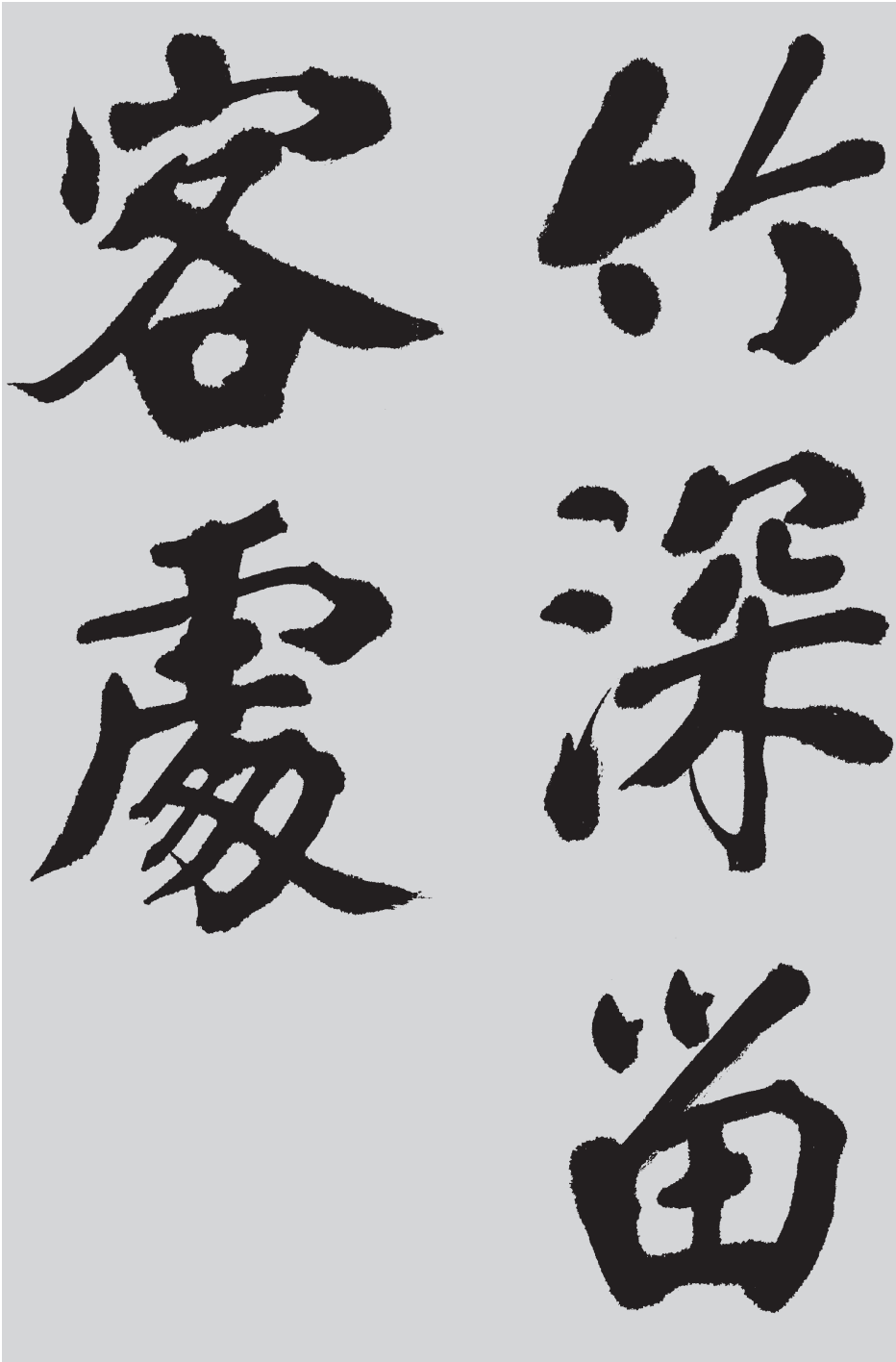
◆注意…はじめて出品される方は私製の紙（3×4 cm位）に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。出品料550円。

①バーコード券右空欄に漢かと記入 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新

平岡華雪先生書

竹深く客を留むる処(杜甫)

訳：竹林の深いところに客を留め、



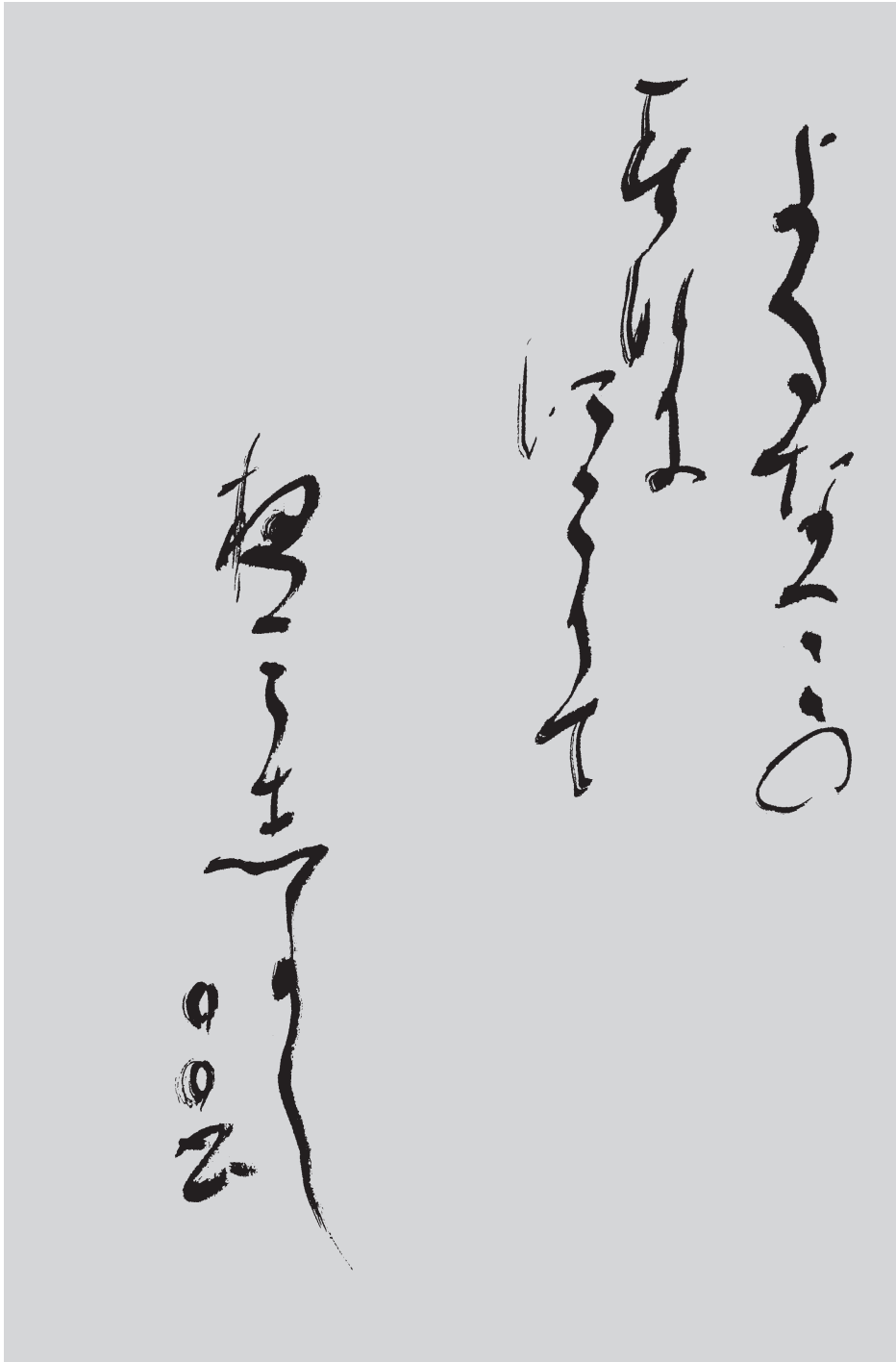
〈つながりのリズム〉

「深」の、^レ、「留」の、^レ、簡単のように見えても、筆のつながりはたやすくはありません。これは筆の弾み^弾を使ってリズム的に用筆することです。

→ 客 留 處

◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は460円。

①漢字部 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新



平岡華雪先生書

よる波の砂に濁りて夜みじかし (乙二)
よるな三の春那尔にこりて夜三志可し

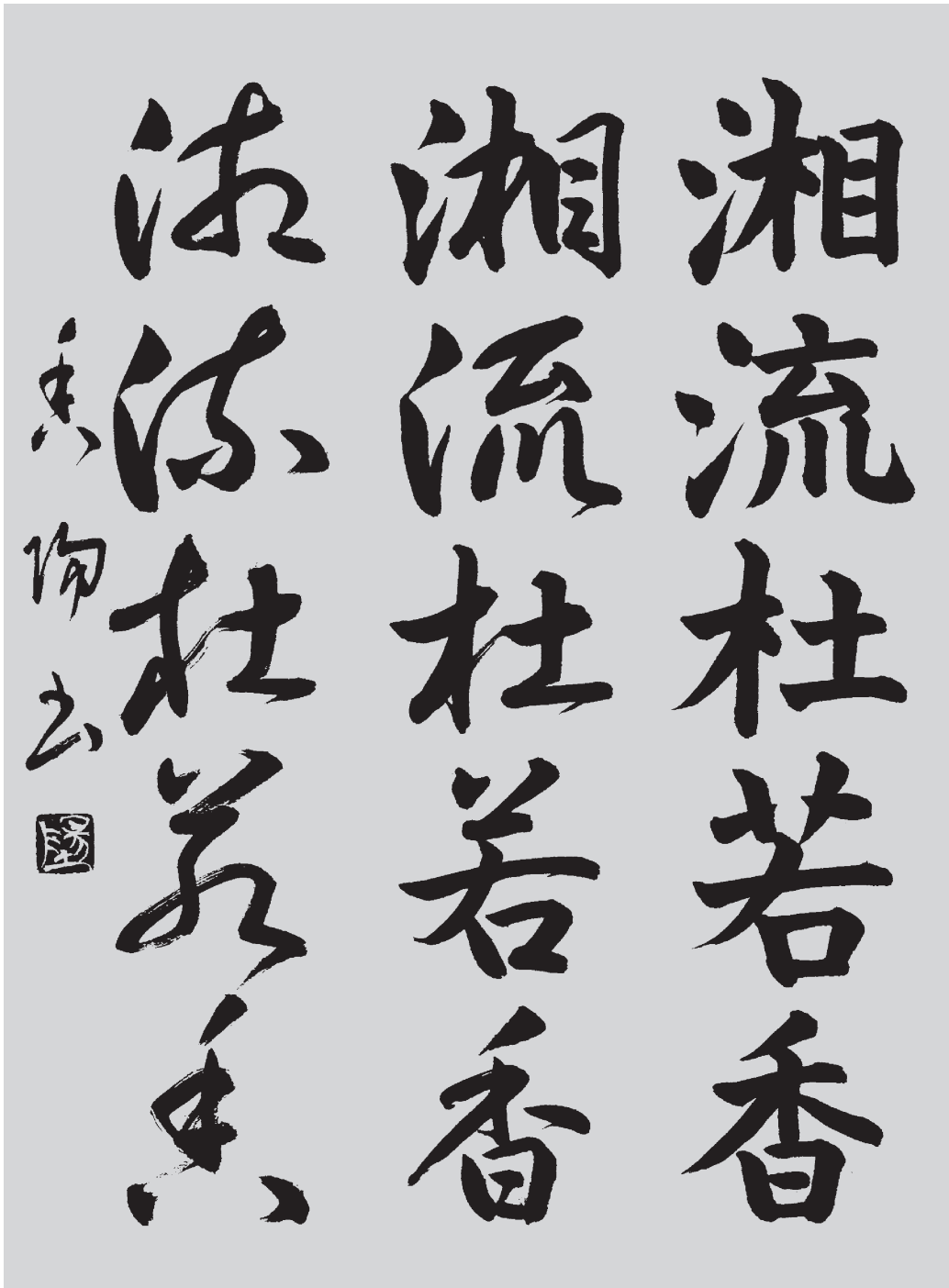
〈変体がなの例〉
 春 ^ス 春 ^ナ 那 ^カ 尔 ^ニ
 那 ^ナ 春 ^ス 那 ^ナ 尔 ^ニ
 那 ^ナ 春 ^ス 那 ^ナ 尔 ^ニ
 可 ^カ 尔 ^ニ 可 ^カ 尔 ^ニ 可 ^カ 尔 ^ニ

◆注意…はじめて出品される方は私製の紙（3×4 cm位）に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は460円。

- ①かな部 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新

福
田
香
陽
先
生
書

湘流杜若香（陰鏗）
湘流 杜若の香



訳：湘江は神女の摘んだ杜若の香りを漂わす。

1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は460円。

随 意 部 参 考

町田 煌月先生書

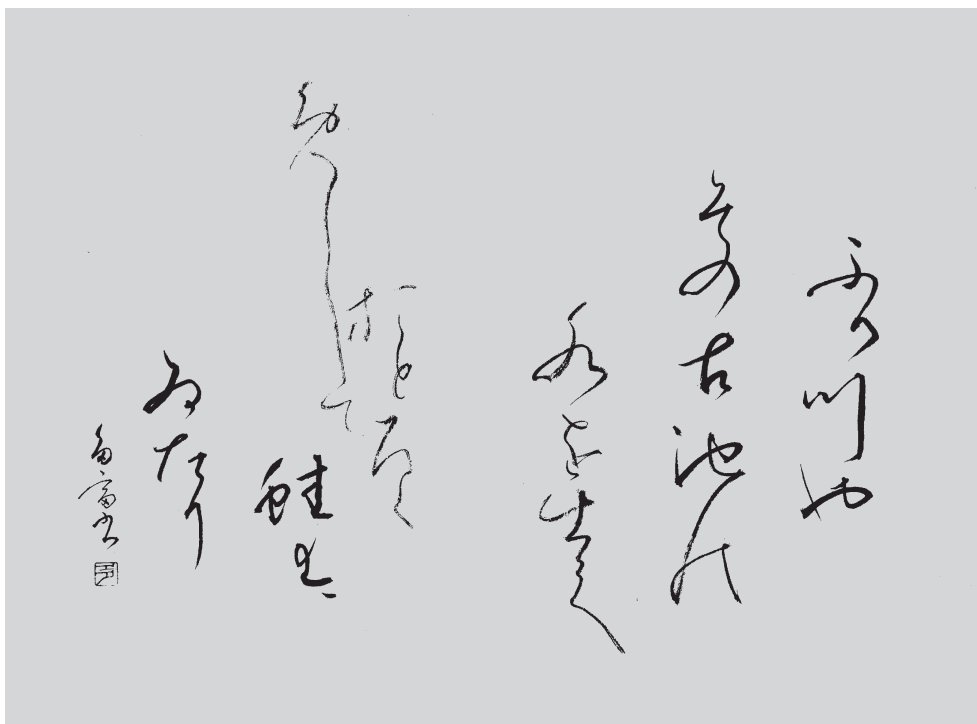
謙慎(漢書)
謙慎。



訳：へりくだりつつしむこと。謙遜謹慎。

森 多富先生書

深川やその古池の水を出ておどろく眼して蛙はるたり(太田水穂)
ふ可川やその古池能水を出天於とる久免して蛙盤るたり



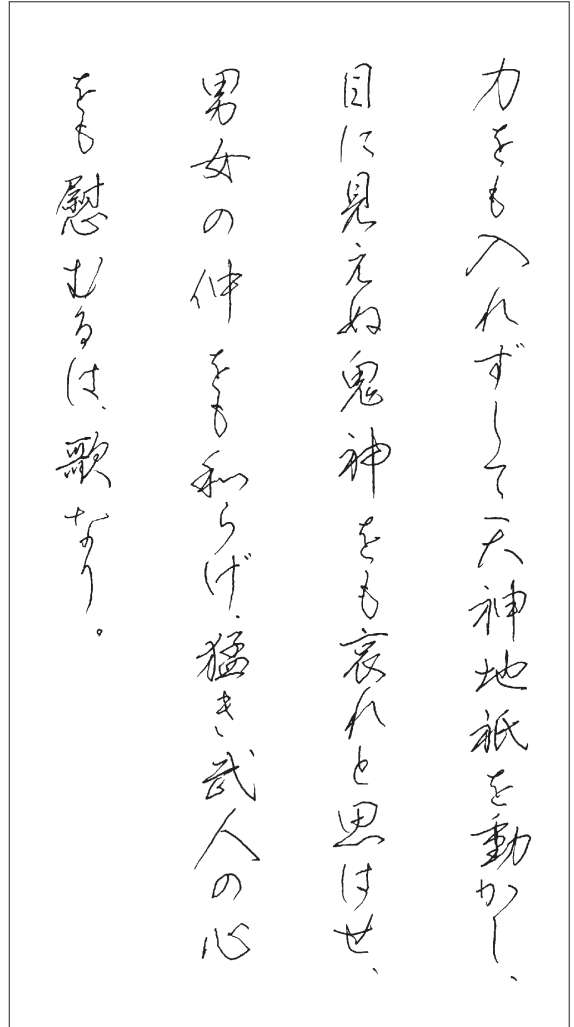
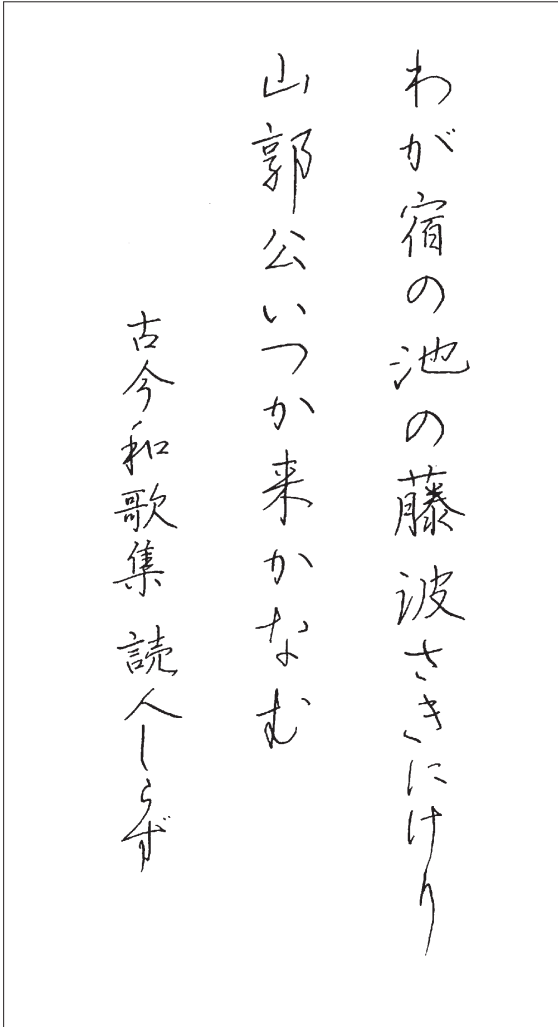
1. 随意部参考として出品してください。 2. 会員外の出品料は460円

湯澤春翠先生書

川上香蓉先生書

課題 2 (初段階以下)

課題 1 (初段階以上)



課題 1 (初段階以上)

力をも入れずして天神地祇を動かし、目に見えぬ鬼神をも哀れと思はせ、男女の仲をも和らげ、猛き武人の心をも慰むるは、歌なり。
〔古今和歌集 仮名序〕

◆注意

- (1) 自分の段級に合った課題を選択。
- (2) ペンまたはボールペン(黒色)を使用のこと。青インクは不可。
- (3) 段級欄は本人が記入(色は黒)はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位) 次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。①硬筆部②支部名または都道府県名③氏名または雅号④新
- (4) 会員は無料・会員外は四六〇円

課題 2 (初段階以下)

わが宿の池の藤波さきにけり
山郭公いつか来かなむ

古今和歌集 読人しらす
(出典も課題に含みます)